

# 研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&amp;FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

## 研修講座 算数・数学

### 「算数授業を左右する教師の判断力」

【講師】 筑波大学附属小学校 森本隆史先生

8月1日（火）、筑波大学附属小学校の森本隆史先生をお迎えし、「算数授業を左右する教師の判断力」と題して、ご講義いただきました。

初めに教師の授業観として「『考え』『表現』『やる気』『本気さ』『わからなさ』『関わり合い』『やさしさ』『感動』『笑顔』を子どもから引き出したい。」そのためにできることを考えることが大切であるということを確認しました。

次に、「授業前の判断力」と「授業中の判断力」が教師に求められるという話がありました。

「授業前の判断力」とは、教材研究をする時に提示の仕方（どんな見せ方をするか）と発問（何とどうか）を考え、考えたことが子どもたちにどう見えるのか、どう考えるのか、どう感じるのかを考えることが大切であることを学びました。

「授業中の判断力」とは、算数的活動が教科のねらいや本質につなげるために子どもから考えを引き出す提示の仕方、発問を考えることであるということが分かりました。具体的な問題提示の仕方として、「かくす」「わざとまちがったものを扱う」「きまりが見つかるものを出す」など具体例を挙げながら紹介いただきました。



最後に対話を生む言葉がけと対話を生まない言葉がけについて話がありました。「わかった?」「できた?」と投げかけると結果的に分かった子、できた子だけで授業が進んでしまうため、対話が生まれなくなってしまう。そうではなくて「難しかった?」「今のどうだった?」「先生もよくわからなかったなあ。」と投げかけることで安心感が生まれ、分からないと言えることが結果的に対話を生んでいくことにつながると分かりました。本講座で学んだことを各校・園で還流していただくとともに2学期からの実践に活かしていただきたいと思います。

#### アンケートより【一部抜粋】

- 教材研究をする時に「何を引き出すのか」「子どもはどんな反応をするのか」を考えることが大切だと改めて感じました。「引き出す」ためには「隠す」という手法も効果があると実感したので、実際に授業でやってみたいと思いました。(小)
- 子どもから「考えを引き出す」という授業観をいつも心がけているつもりであっても、まだまだ考えが至っていないことがよく分かりました。特に対話を生まない言葉である「わかった」「できた」という言葉を使っている自分がいて、必ずしも子どものためにはなっていないことに気づきました。(中)
- 森本先生の話聞いて、私は自分が出したいという考えを子どもがつぶやくとすぐに問い返していたので、全体で考える機会を設けていきたいと思います。(小)

